

日本健康心理学会メールマガジン No.32



2015年3月23日 第32号

Contents

- 1) 学会からのお知らせ
- 2) 健康心理学コラムvol.27 東京家政大学 三浦正江先生

1) 学会からのお知らせ <http://jahp.wdc-jp.com/>

■日本健康心理学会では、4月から新年度を迎えるにあたり、新規会員を募集しています。会員の皆様には、新規会員の勧誘にご協力ください。その際、学会紹介パンフレットを有効活用頂ければ幸いです。

<http://jahp.wdc-jp.com/pdf/panf.pdf>

■東北学院大学 教員公募のお知らせ

<http://jahp.wdc-jp.com/news/news.html>

■研究推進委員会から

適応指導教室における感覚的アプローチを用いた支援研究集会

□日時：2015年3月27日（金）13:00～16:00（開場12:30）

□会場：作新学院大学 中央研究棟第1会議室

<http://jahp-research.blogspot.jp/>

■第28回大会@桜美林大学について

□大会参加、発表・会員企画シンポ申し込みを開始しました（3/4-5/8）

□1号通信・原稿作成投稿要領・ポスター発表者用テンプレート

・シンポ企画者用テンプレートがHPに掲載されました。

<http://jahp.wdc-jp.com/conf/28th/index.html>

2) 健康心理学コラムvol.27

「震災後4年、福島の子どもの健康」

（東京家政大学人文学部 三浦 正江 先生）

今年も3月に入り、TVでは東日本大震災関連の特集番組があちこちで報道されています。

先日、卒業前のゼミ生との飲み会で「私たち震災があって大学の入学式がなかったんです」という話になり、「震災から4年」という時間を感じました。

私は昨年度、福島第一原子力発電所事故で浪江町から避難し、福島県内の仮設住宅で生活している小中学生の生活調査をする機会をいただきました。

その結果、子どもたちの心身のストレス反応の高さや友人サポートの低さが示されました。

これに対して、同時期に福島県内の自宅（震災前からの住居）で生活している小学生のストレス反応は首都圏の子どもよりも低く、担任教師や友人からのサポートは高い傾向にありました。

サンプル数は少なく、もちろん結果は慎重に解釈すべきですが、もしかすると4年間という時間の中で徐々に日常を取り戻

して回復しつつある子どもたちと、まだまだ支援が必要な子どもたちの違いなのかもしれません。

ただし、仮設住宅の子どもたちも日常生活でポジティブイベントを経験し、ポジティブ感情を十分に表出していました。

家族や友人と離れ離れの子、廃工場後のサテライト校に送迎バスで通う子など、震災と原発事故によって大きく変化した環境の中で、懸命に生活して成長していく子どもたちの健康に対して、私たちができることをまだまだ継続していく必要性を改めて感じました。

日本健康心理学会広報委員会

<http://jahp-public.blogspot.jp/>

メールマガジンの配信停止、アドレス変更については下記アドレスまで。

日本健康心理学会事務局 <jahp-post@bunken.co.jp>

メールマガジンへのご意見・ご感想については下記アドレスまで。広報委員会 <jahp-ML@bunken.co.jp>

過去のメールマガジンは、こちらからご覧いただけます

<http://jahp.wdc-jp.com/health/health1.html>